

千葉県、全国の麻疹・ 風疹発生状況等について

令和6年1月15日
千葉県健康福祉部疾病対策課
感染症予防班

本日の内容

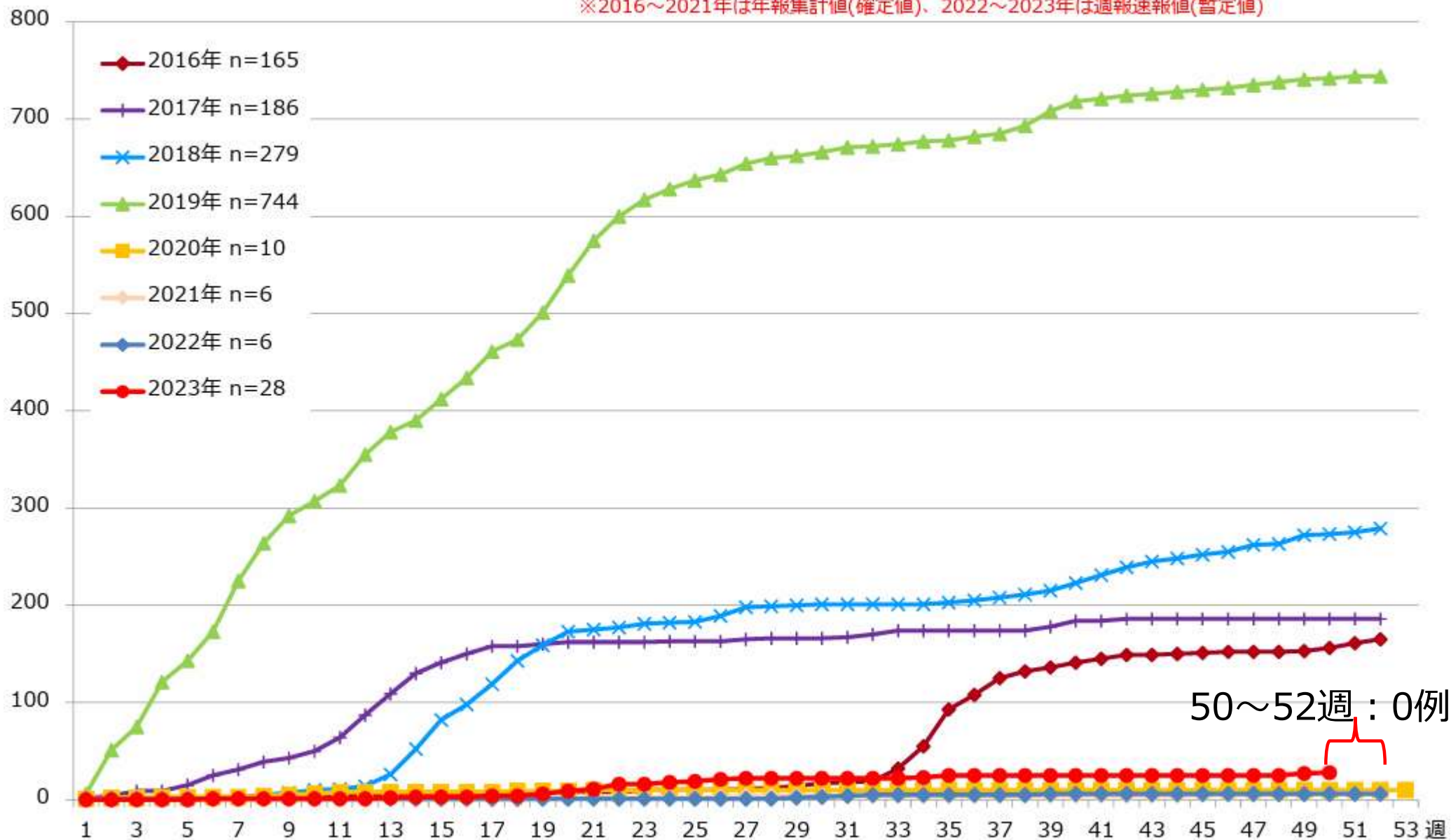
- ・麻しんの発生状況について
- ・風しんの発生状況について
- ・麻しん、風しんの予防接種率の状況について
- ・麻しん、風しんの対策について

本日の内容

- ・麻しんの発生状況について
- ・風しんの発生状況について
- ・麻しん、風しんの予防接種率の状況について
- ・麻しん、風しんの対策について

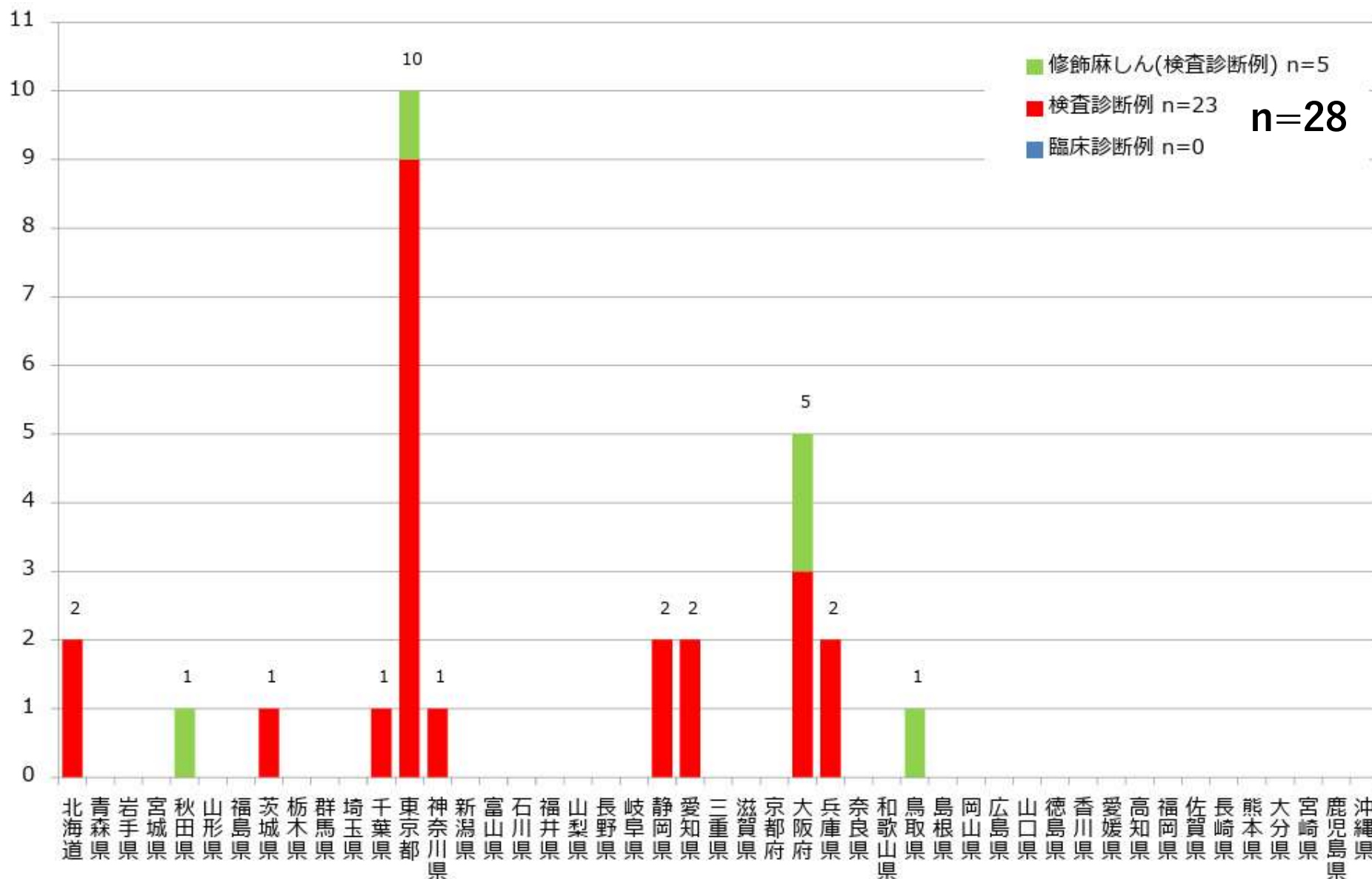
2020年以降では最多となる28例が報告

※2016～2021年は年報集計値(確定値)、2022～2023年は週報速報値(暫定値)



50～52週：0例

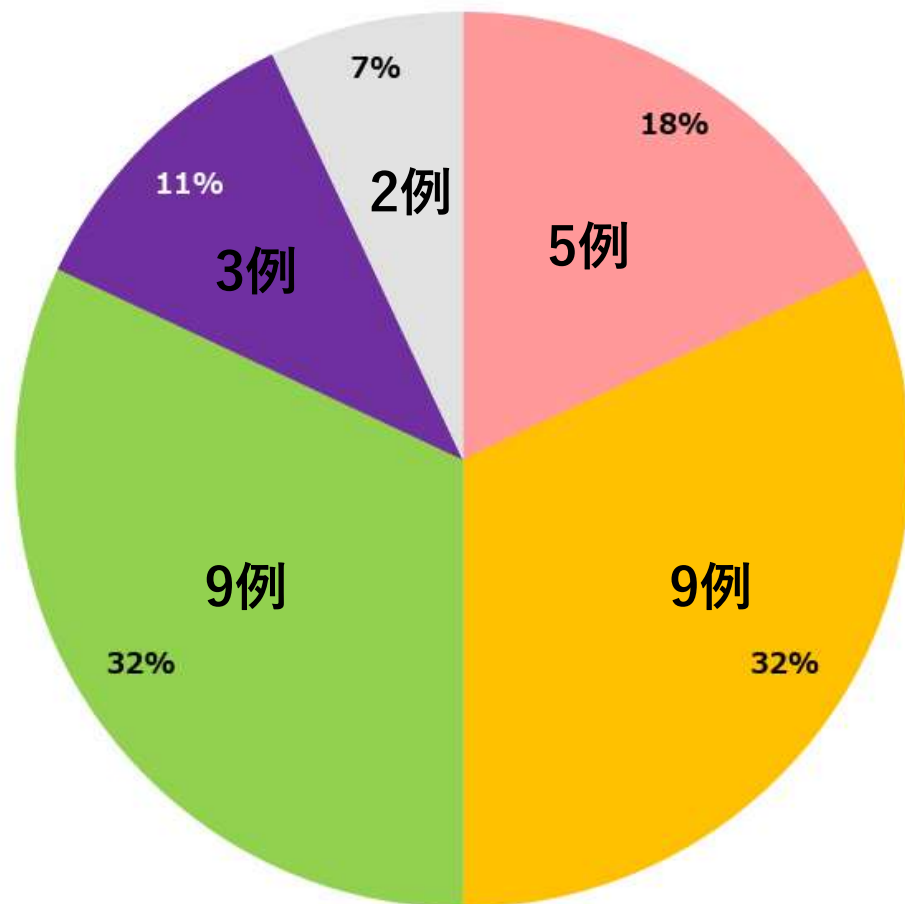
東京都が10例で最も多く、次いで大阪府で5例



麻疹 感染症発生動向調査（国立感染症研究所感染症疫学センター）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hassei/575-measles-doko.html>

感染症発生動向調査 2023年12月20日現在

**年代別では20代、30代が9例ずつで最も多かった
成人が全体の8割以上を占めていた
全体の86%がワクチン接種歴が不完全または不明だった**

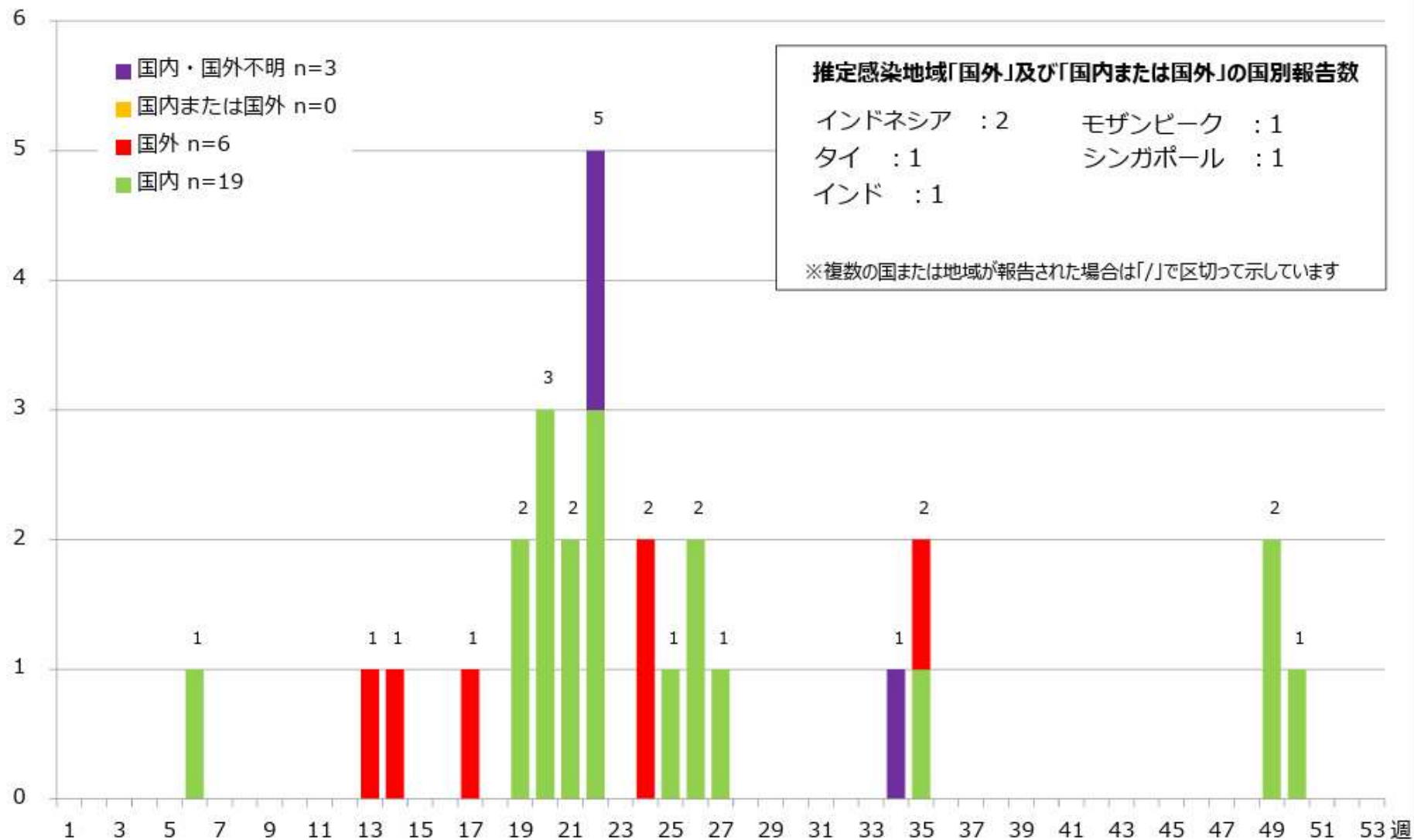


ワクチン接種歴別

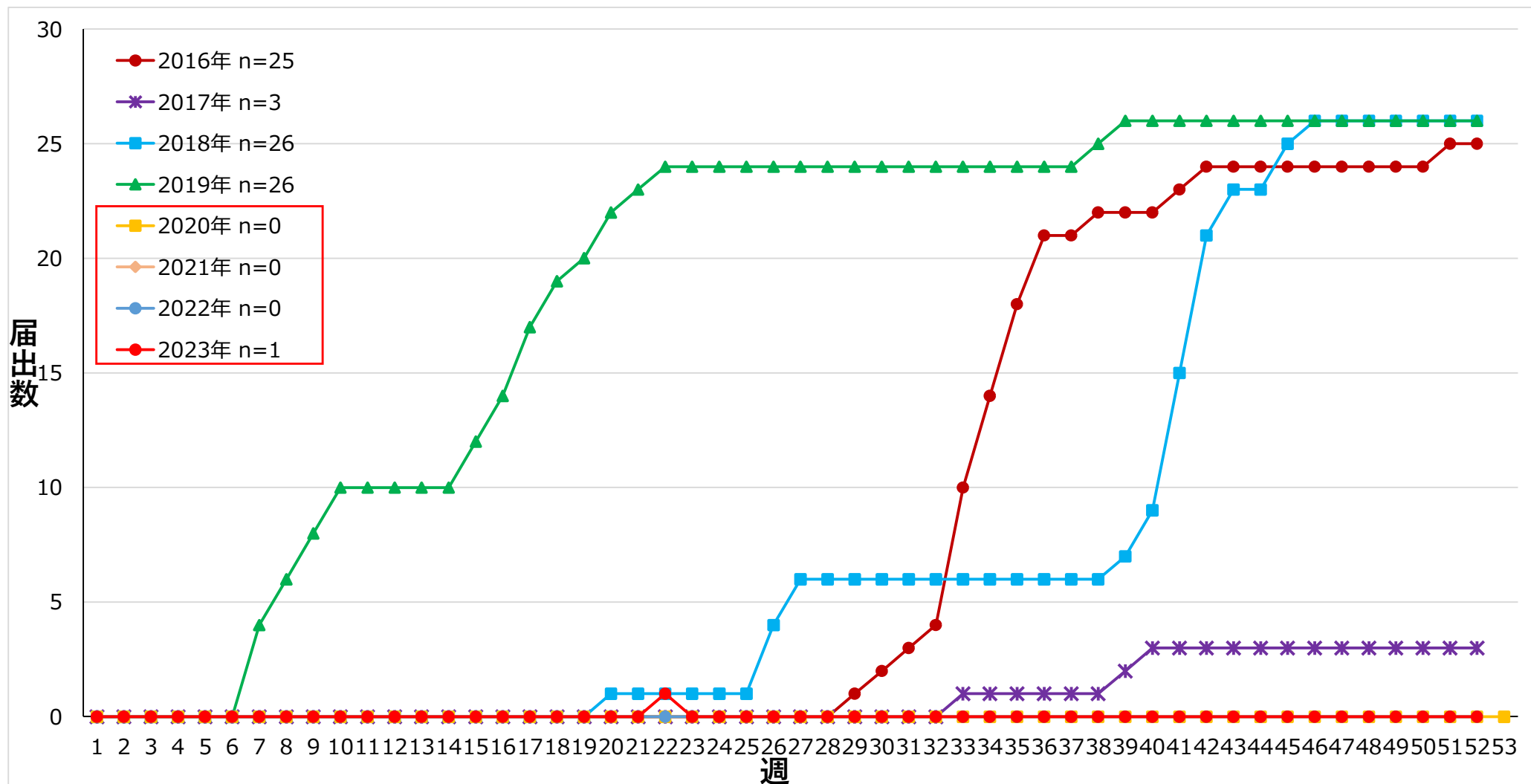
不明	7	25%
2回接種	4	14%
1回接種	11	39%
0回接種	6	21%
合計	28	

0歳 1～4歳 5～9歳 10～14歳 15～19歳 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50歳以上

判明分のうち、19例（76%）は国内感染が推定 国外では東南アジア地域が多かった



2020～2022年の3年間は県内で発生届出なし 2023年は4年ぶりに第22週に1例届出あり



20代男性・会社員
ワクチン2回接種済
罹患歴不明

【経過】

5月24日－発熱

5月28日－発疹

5月29日－検体（抗体検査）採取

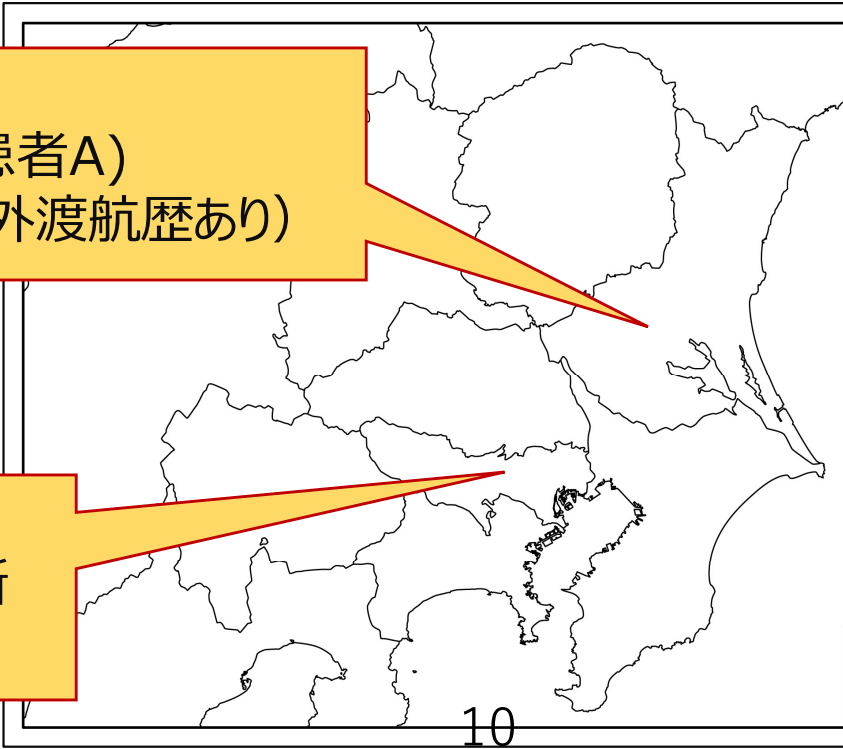
6月2日－発生届提出

6月5～6日－PCRで陽性（遺伝子型：D8）

6月7日－千葉市にて報道発表

R5.5.12 国事務連絡 麻しんの国内伝播事例の増加に伴う注意喚起について

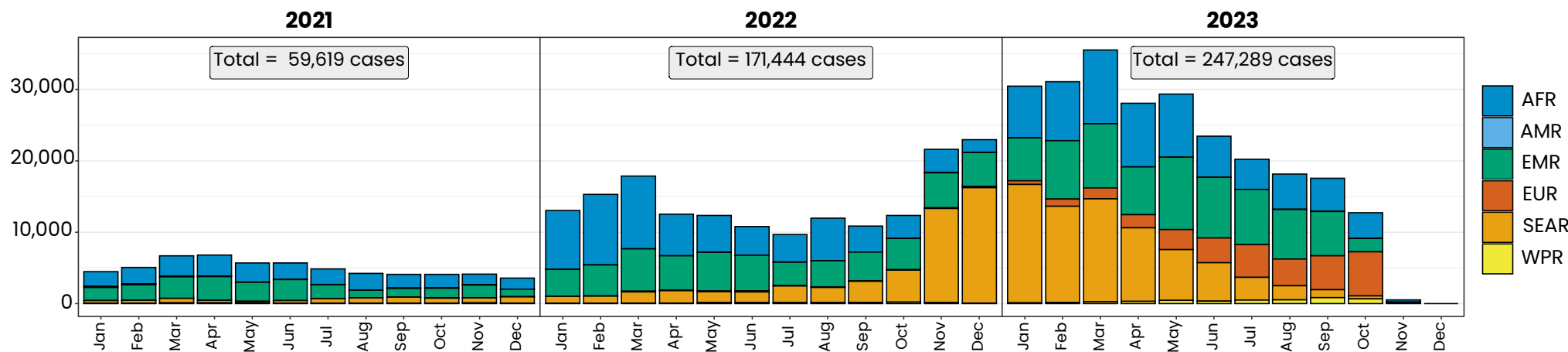
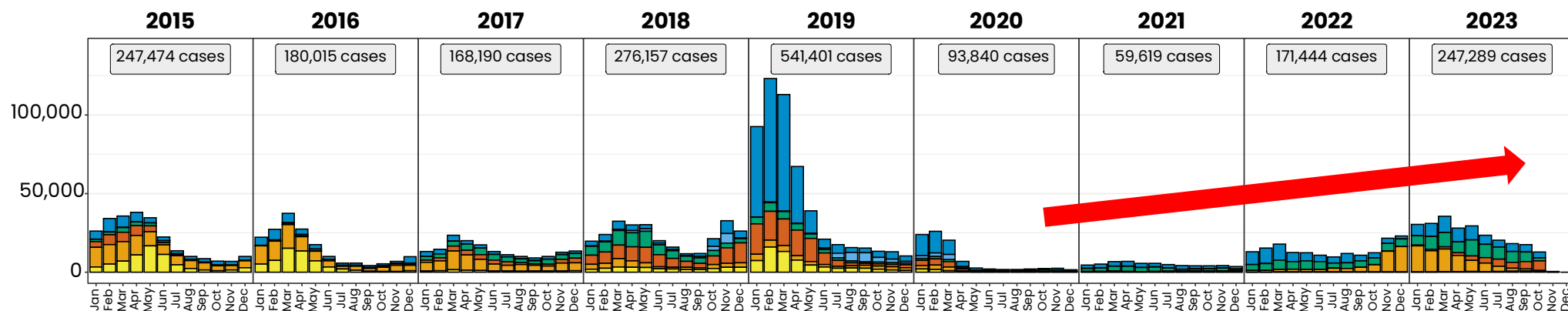
- 令和5年4月～5月にかけて、茨城県や東京都の関東近郊において海外からの輸入症例をきっかけとした麻しんの伝播事例が複数例発生
- 国はR5.5.12付けで各自治体に対して同事務連絡で注意喚起を実施
- 県ではR5.5.15付けで県保健所、各関係団体宛てで通知を发出



R5.4.27
茨城県1例（患者A）
麻しん診断(海外渡航歴あり)

R5.5.12
東京都2例麻しん診断
→患者Aと関連有

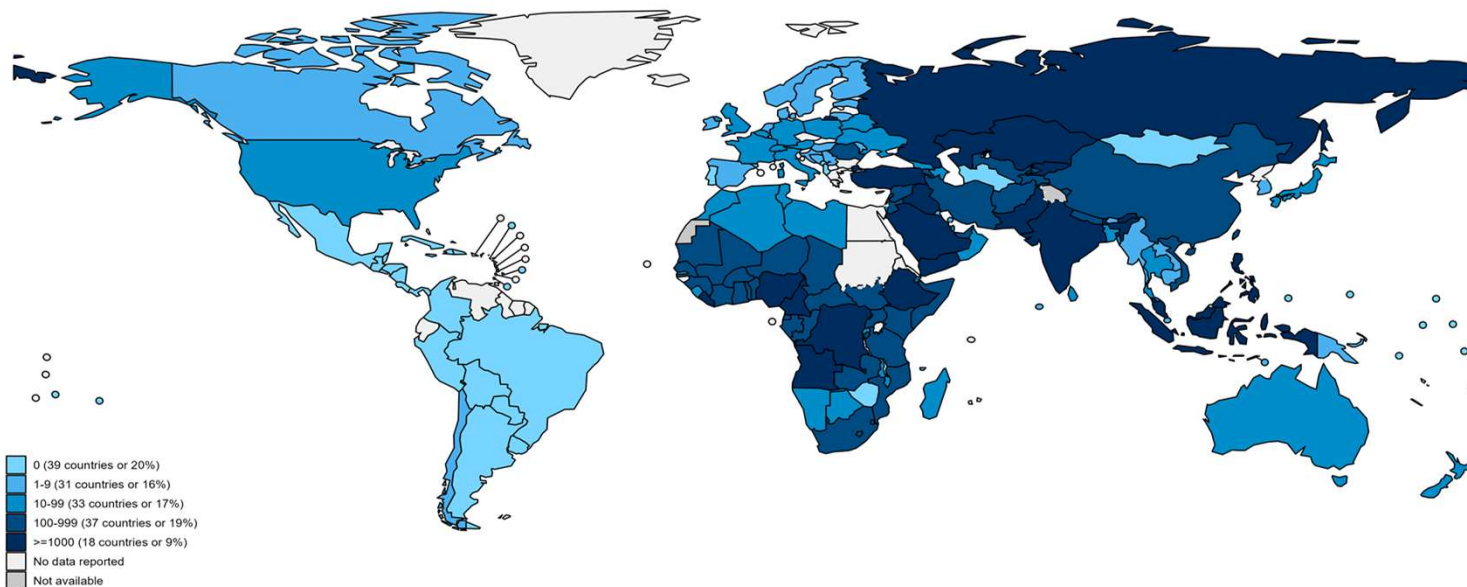
世界の麻疹発生数は2021年以降年々増加



参照 : WHO_Provisional monthly measles and rubella data

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

特にアフリカ、南・西・東南アジアの諸国で多く患者が報告



Map production: World Health Organization, 2023. All rights reserved
Data source: IVB Database

Disclaimer: The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

0 875 1750 3500 Kilometers

Country	Cases*
Yemen	25,216
India**	14,927
Kazakhstan	12,985
Ethiopia	11,227
Pakistan	8,316
DR Congo***	5,989
Russian Federation	4,305
Iraq	4,164
Indonesia	3,827
Nigeria	3,683

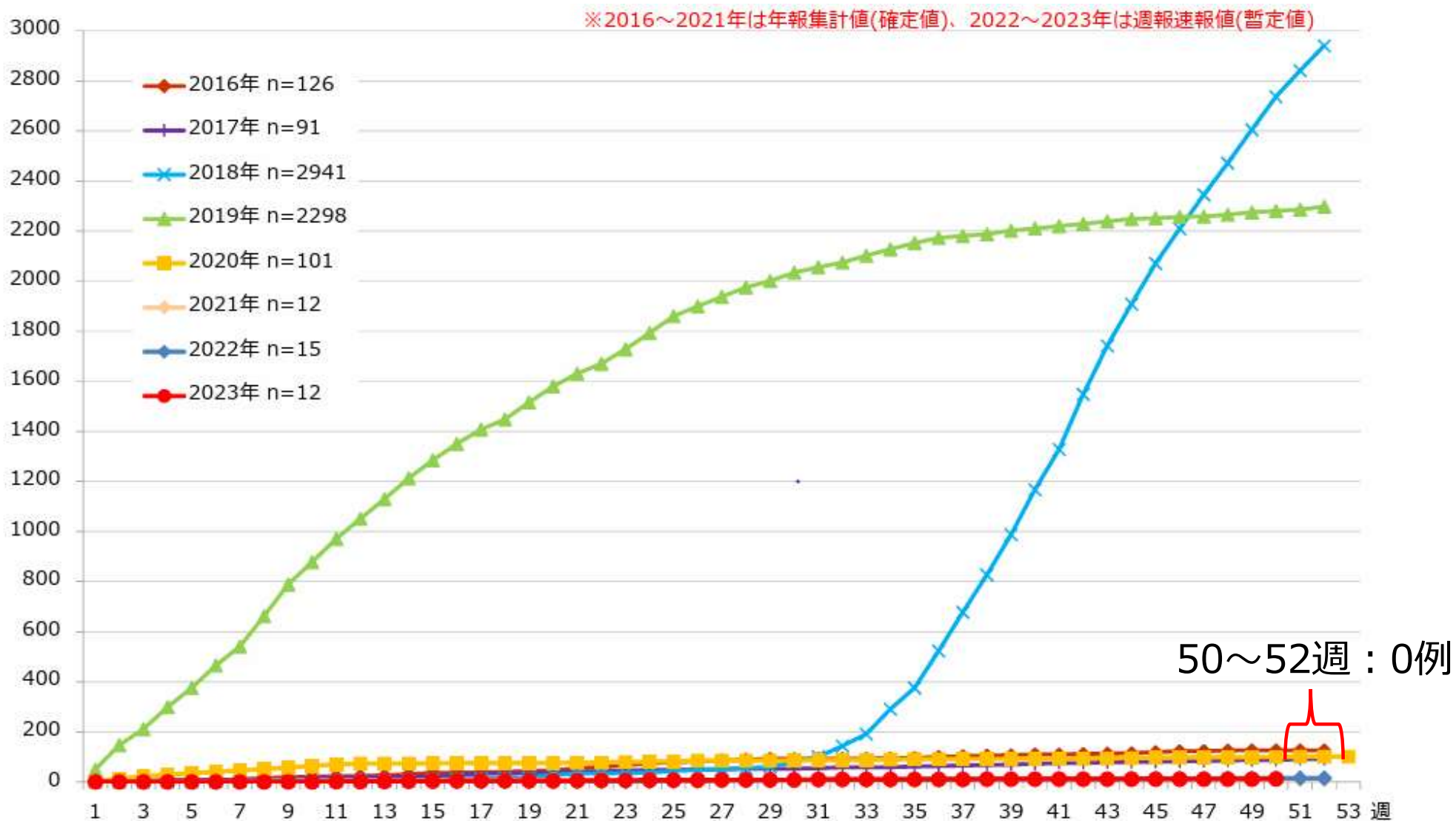
参照 : WHO_Provisional monthly measles and rubella data

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

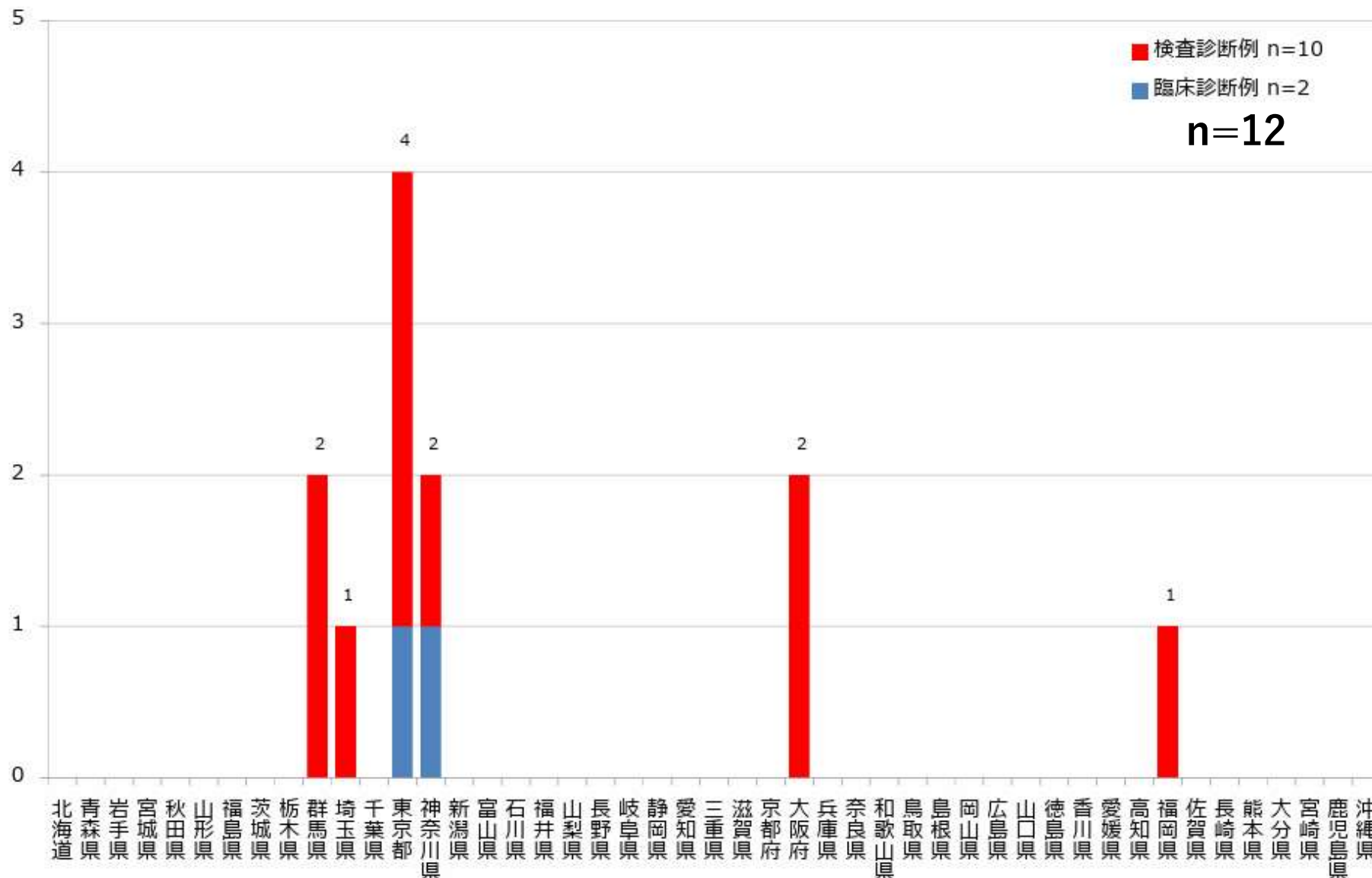
本日の内容

- ・麻しんの発生状況について
- ・風しんの発生状況について
- ・麻しん、風しんの予防接種率の状況について
- ・麻しん、風しんの対策について

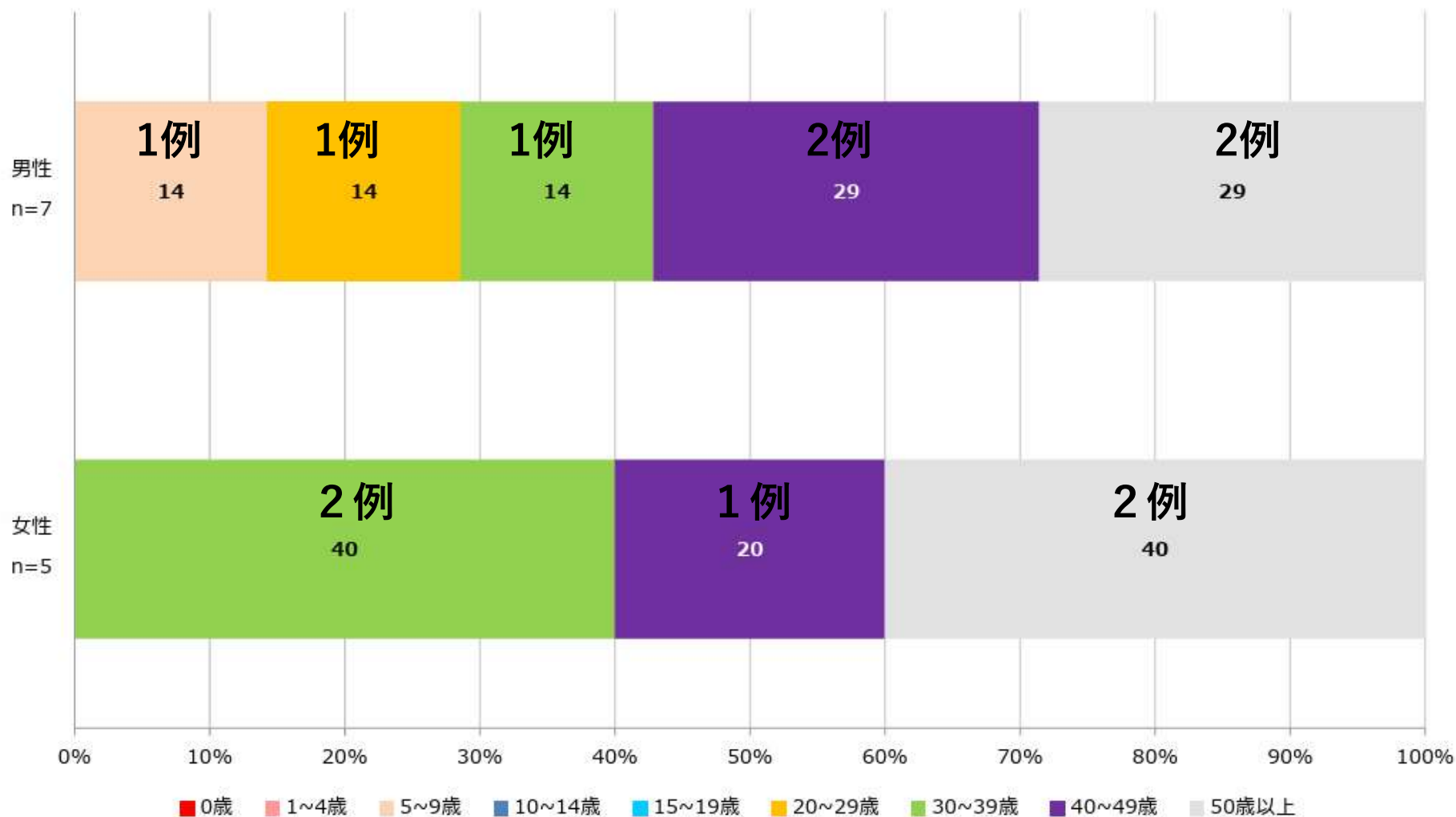
2021年以降低水準が継続 2023年は12例のみ



東京都が4例で最も多かった 近隣の埼玉県、神奈川県でも発生



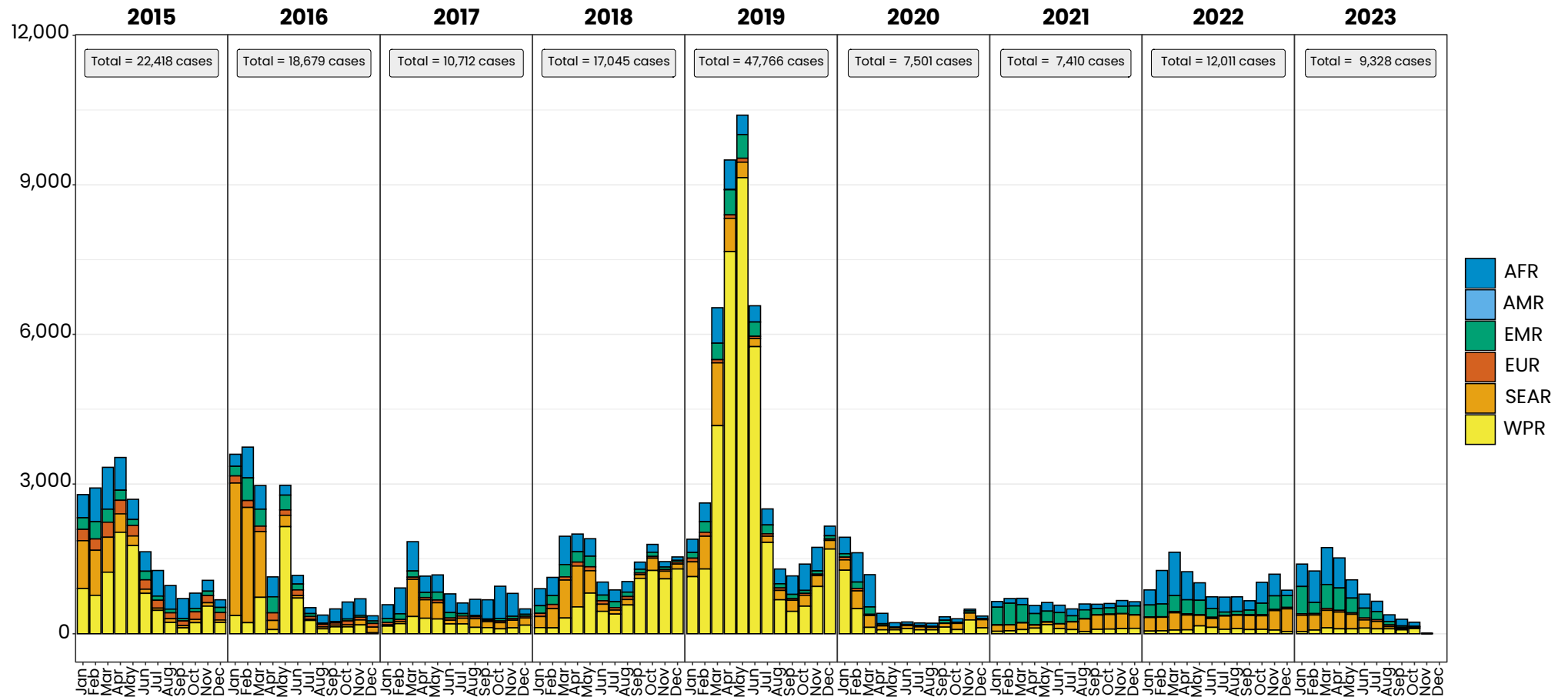
男性が7例、女性が5例で、男性がやや多い 男女ともに30代以上の成人の症例が多い



男女ともに1例を除き、ワクチン接種歴が不完全または不明だった

男性	不明	6	86%
	2回接種	1	14%
	1回接種	0	0%
	0回接種	0	0%
合計		7	
女性	不明	3	60%
	2回接種	0	0%
	1回接種	1	20%
	0回接種	1	20%
合計		5	

昨年より発生数は減少しているが、2020年以降徐々に増加傾向



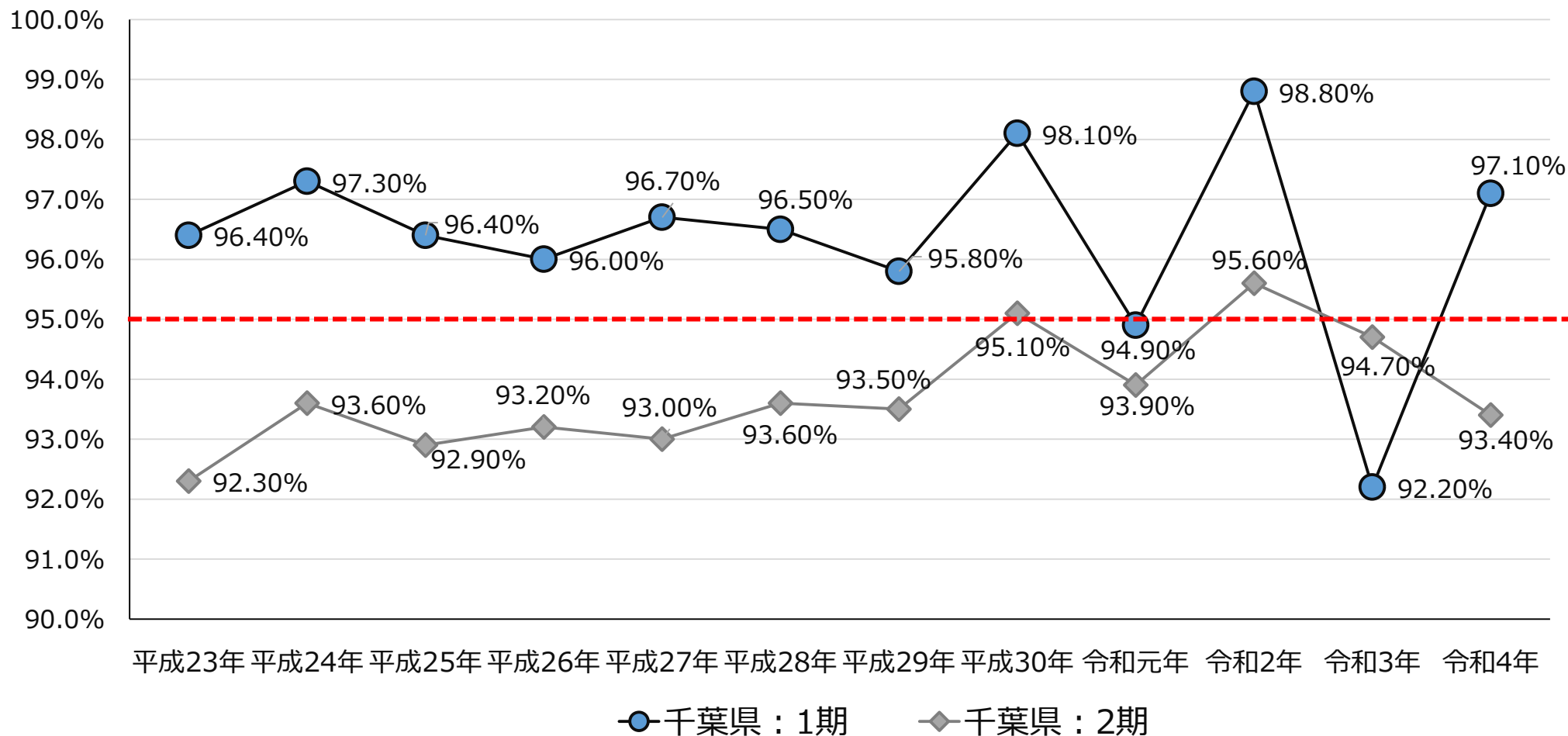
参照 : WHO_Provisional monthly measles and rubella data

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

本日の内容

- ・麻しんの発生状況について
- ・風しんの発生状況について
- ・麻しん、風しんの予防接種率の状況について
- ・麻しん、風しんの対策について

1期は増加 (92.2%→97.1%)
2期は減少 (94.7%→93.4%)



令和4年度 全国の状況
 1期：95.4% 2期：92.4%

1期、2期ともに県と全国の接種率の傾向は一致 2期が減少傾向

千葉県	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	1期	96.4%	97.3%	96.4%	96.0%	96.7%	96.5%	95.8%	98.1%	94.9%	98.8%	92.2%
2期	92.3%	93.6%	92.9%	93.2%	93.0%	93.6%	93.5%	95.1%	93.9%	95.6%	94.7%	93.4%
全国	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	1期	95.3%	97.5%	95.5%	96.4%	96.2%	97.2%	96.0%	98.5%	95.4%	98.5%	93.5%
2期	92.8%	93.7%	93.0%	93.3%	92.9%	93.1%	93.4%	94.6%	94.1%	94.7%	93.8%	92.4%

 増加

 減少

本日の内容

- ・麻しんの発生状況について
- ・風しんの発生状況について
- ・麻しん、風しんの予防接種率の状況について
- ・麻しん、風しんの対策について

平常時および発生時における対策

1. 予防接種の推進

- 接種率把握、市町村との連携、ホームページ等での広報など

2. 県、国内外の発生動向の把握

- 感染症発生動向調査、流行地域の発生状況の確認など

3. 患者発生時の各関係機関との連携、役割の周知

- 各種マニュアルの周知・徹底など

4. 積極的疫学調査

- 検査体制の整備、職員等への研修の実施、MR抗体価確認など

5. 情報提供、注意喚起

- 報道発表、ホームページ掲載等による注意喚起など

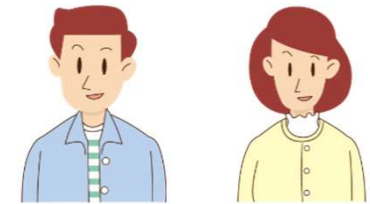
⑱千葉県独自の風しん対策事業

1 千葉県風しん抗体検査

風しんの抗体検査を実施し、必要な者を予防接種の実施へつなげることにより、先天性風しん症候群の発生予防を図ることを目的とし、以下の対象者は、県委託医療機関で風しん抗体検査を無料で受検できる。

【対象者】 次の1～5の全項目の条件を満たす方。

- ① 県内市町村に居住地（千葉市・船橋市・柏市を除く）を有している
- ② 次の（1）、（2）いずれかを満たしている
 - （1）妊娠を希望する女性（19歳以下で未婚の方は保護者同意が必要）
 - （2） **（1）の配偶者※1**又は、**風しんの抗体価の低い※2妊婦の配偶者**
※1：事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む(婚姻未届出)
※2：HI法で32倍未満、EIA（IgG）法で8.0未満
- ③ 過去に風しん抗体検査を受けたことがない
- ④ 過去に風しんの予防接種を受けたことがない
- ⑤ 過去に風しんにかかったことがない



※千葉市、船橋市、柏市は別途実施

2 千葉県風しんワクチン接種補助事業

市町村が実施する風しんワクチンに係る予防接種助成事業（定期接種を除く）を促進し、公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とし、市町村に対して補助する。

【補助対象者】

県及び千葉市、船橋市、柏市が実施する風しん抗体検査で抗体価が低いとされた者※

※HI法で32倍未満又はEIA(IgG)法で8.0未満の者

【補助額】 ・市町村が助成した助成額の1/2

【事業期間】 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

まとめ

- 2023年の麻しんの発生状況は国内では20～30代の成人を中心に28例確認され、2020年以降増加傾向がみられた。国外では、近年、麻しん患者数の増加傾向がみられており、海外渡航歴ありの患者を発端とする国内感染例が複数例確認された
- 県では2023年、4年ぶりに麻しんが1例報告された
- 2023年の風しんの発生状況は国内では12例確認され、前年比で大きな変動はなく、県では2023年に発生がなかった
- 県の麻しん風しんワクチンの接種率は全国と同様の傾向を示しており、1期は増加、2期は減少傾向だった
- 麻しん風しんの流行予防対策として、予防接種の推進、発生動向の把握、患者発生時の各関係機関との連携や役割の周知、積極的疫学調査、情報提供・注意喚起や風しん抗体検査やワクチン接種補助などの対策を実施している